

## 抗 EID 1 抗体、マウスモノクロ (#26)

71-185 100 µg

**EID1** (EP300 interacting inhibitor of differentiation) は 21 kDa のタンパク質で、RB1 及び EP300 タンパク質と結合して MYOD1 遺伝子の転写のレプレッサーとして機能する。**EID1** は EP300/CBP のヒストンアセチルトランスフェラーゼ活性を阻害する。**EID1** は細胞周期の進行の終了と細胞分化に必要な遺伝子の転写制御をカップルさせる機能に関与していると考えられている。

マウスハイブリドーマ (クローン #26) を無血清培地で培養し、弊社独自の方法でマイルドな条件で IgG を精製した。

### 用途:

1. ウェスタンブロッティング (~1 µg/ml)
  2. ELISA
- 他の用途はテストされていない。

### 製品の性質

**抗原:** ヒト EID1 タンパク質のアミノ酸 159~187 を含む合成ペプチド

**反応性:** ヒト、マウス、ラットの EID1 タンパク質

**Isotype:** マウス IgG2a (κ)

**性状:** 精製モノクローン抗体 (IgG) 1 mg/ml in PBS (pH 7.4), 50% glycerol, ろ過滅菌済

**保存:** -20°C (長期 -70°C)

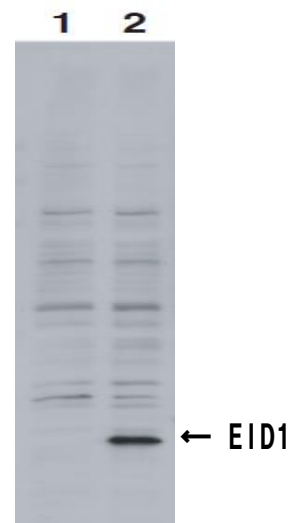
**データリンク:** Swiss-Prot [Q9Y6B2](#)

### 参考文献:

1. MacLellan WR *et al* "A novel Rb- and p300-binding protein inhibits transactivation by MyoD." *Mol Cell Biol* **20**:8903-8915 (2000) PMID: [11073990](#)
2. Nguyen DX *et al* "Acetylation regulates the differentiation-specific functions of the retinoblastoma protein." *EMBO J* **23**: 1609-1618 (2004) PMID: [15044952](#)

図1. 細胞粗抽出液中の**EID1**タンパク質のモノクローン抗体#26を用いたウェスタンブロッティング法による同定。乳癌細胞MCF7細胞にベクターpCMV1 (レーン1) またはEID1発現ベクターpcDNA3/EID1 (レーン2) をトランスフェクションして培養し、それらの細胞粗抽出液をモノクローン抗体#26を一次抗体とし、HRP結合抗マウスIgGを二次抗体として用いて、ウェスタンブロッティングを行った。21 kDaのタンパク質の位置 (矢印) にEID1タンパク質を検出できる。

**関連製品** # [71-190](#) 抗 EID1 抗体、モノクローン(#2)



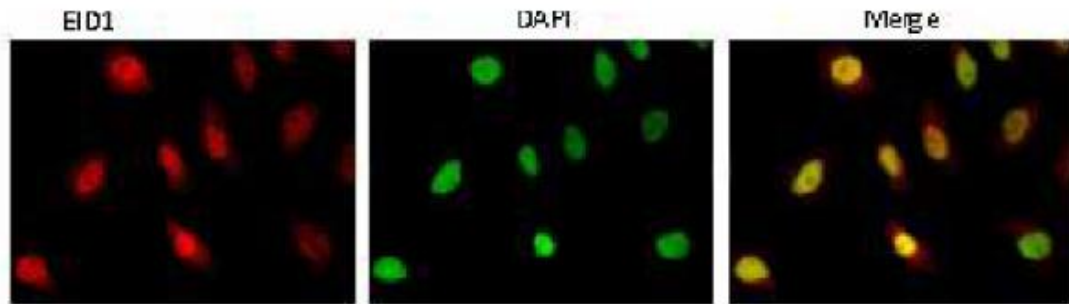


図2. 抗EID1抗体(#26)を用いた関節免疫蛍光染色によるHeLa細胞中のEID1タンパク質の同定

細胞は4% paraformaldehydeで固定し、0.25% Triton X-100で透過処理をした。抗EID1抗体は1/1,000希釈で使用。二次抗体はAlex 488で標識したヤギ抗ウサギIgG抗体を1/1,000希釈して用いた。DNAはDAPIで染めた。EID1タンパク質は主として核に局在している。